

平成九年度 仏教文化研究所事業報告

〔運営委員会〕

平成九年五月一日（木） 一二時三〇分～

学長室

平成九年度事業計画

出席者 高崎直道所長、関根透主任、納富常天所員、大三輪龍彦所員、永田勝久所員、河野眞知郎所員、小林恭治所員、石田千尋所員、中田直道所員、矢島道彦所員

〔五月研究会〕（研究発表）

平成九年五月二九日（木）

「仏遺教経」担当 小林恭治所員

〔公開講演会〕

平成九年六月一四日（土）

鶴見大学会館メインホール（参加者一〇〇人）

「日本中世における女性の社会的活動について」講師 網野善彦先生（神奈川大学特任教授）

「出土遺物にみる中世鎌倉での仏教の普及」講師 河野眞知郎所員

要旨

中世都市遺跡である鎌倉の考古学的発掘調査では、おびただしい量の生活遺物に混じって、仏教的な遺物も出土しているが、それらを集成しての研究はいまだ進展していない。

寺院址ではない中世市街地遺跡の出土品を取り上げ、出土地の分布、遺物の年代から、鎌倉における世俗階層への仏教の普及を論じてみた。

「三具足」とよばれる香炉・燭台・仏華瓶をはじめ、小さな仏像や經典関係遺物、各種仏具類が、十三世紀後半以降、商人や職人が居住する浜辺の地にまで分布する。

その時期は「鎌倉新仏教」が興隆するときに当たり、また「旧仏教の中興」のときでもある。

布教対象が庶民層に拡大する様を明らかにできるわけだが、宗派の差などについての細部はなお検討を要するであろう。

本発表については、新出土資料を加えて、論考の形での別稿を期している。

〔仏教思想学会会場当番校〕

平成九年六月二八日（土）

鶴見大学図書館視聴覚ホールほか（参加者三八人）

発表数 多数

〔七月研究会〕（研究発表）

平成九年七月二五日（金）

「中世地下式坑の再検討」担当 田代郁夫氏（東国歴史学考古学研究所所長）

〔研究旅行〕

平成九年九月二八日（日）～二九日（月）

龍谷大学図書館

出張者 関根透主任

〔二〇月研究会〕（研究発表）

平成九年一〇月三〇日（木）

「鎌倉・中世寺院社発掘調査の現況」担当 河野眞知郎所員

概要

鎌倉には長い歴史の中で、五百近くの寺が盛衰したといわれる。

今日でも多くの寺院があるが、鎌倉時代の堂舎を遺するものは皆無であり、中世の建築物さえごく僅かである。鎌倉の寺院史を明らかにするためには、考古学的な発掘調査が欠かせなくなっている。

今回の研究会発表では、この四半世紀になされた寺院址の発掘成果を、大づかみに集成し紹介することとした。刊行された発掘調査報告書から、層位的変遷、伽藍遺構、庭園や附属の遺構、住僧の墓、特異な出土品などを示した。

報告した寺院は左記のとおりである（カッコ内に廃とあるのは、現存しない廃寺をあらわす）。

鶴岡八幡宮と鳥居／永福寺（廃）と経塚／多宝寺（廃）／浄光明寺／極楽寺／覚園寺／長勝寺／円覚寺／建長寺／名越山王堂（廃）／智岸寺（廃）／長谷寺／光明寺／新善光寺（廃）／東勝寺（廃）

発掘件数が多いが、調査範囲が限られているため、中世の伽藍の全容を知りえたのは永福寺くらいである。

また出土遺物に文字のあるものが稀であるため、当時の宗教活動を明らかにするに至っていない。
また鎌倉に独特な墓制である「やぐら」と寺院の関係についても、なお検討が必要であろう。

〔研究旅行〕

平成九年一月二一日（金）～二三日（日）

大慈寺・川尻港（熊本市）、広福寺（玉名市）

出張者 高崎直道所長、関根透主任、納富常天所員、小林恭治所員、石田千尋所員、矢島道彦所員

〔一二月研究会〕（見学研究会）

平成九年一月二六日（土）

恵観公山荘（宗偏流家元山田家）鎌倉市浄明寺

出張者 高崎直道所長、納富常天所員、大三輪龍彦所員、永田勝久所員、河野眞知郎所員、小林恭治所員、

石田千尋所員

〔研究旅行〕

平成九年一月一〇日（水）～一一日（木）

常楽台（寺）（京都市）

出張者 関根透主任

〔研究旅行〕

平成九年一月二一日（日）～二二日（月）

竜洞院、前山寺、北条上田城跡、安楽寺、常楽寺（長野県上田市）

出張者 高崎直道所長、関根透主任、納富常天所員、大三輪龍彦所員、永田勝久所員、河野眞知郎所員、
小林恭治所員、石田千尋所員、矢島道彦所員

〔研究旅行〕

平成一〇年一月一六日（金）～一七日（土）

西法寺（安居院流唱導）京都市上京区大宮通寺之内

出張者 納富常天所員

〔研究旅行〕

平成一〇年一月二九日（木）～三〇日（金）

石川県美術館、大乘寺（金沢市）

出張者 高崎直道所長、矢島道彦所員

〔研究旅行〕

平成一〇年二月二三日（月）～二五日（水）平等院（宇治市）

出張者 大三輪龍彦所員、河野眞知郎所員

〔研究旅行〕

平成一〇年二月二三日（月）～二五日（水）市立博物館（神戸市）

出張者 石田千尋所員

〔研究旅行〕

平成一〇年二月二四日（火）～二五日（水）

建仁寺（京都市）、西大寺、般若寺、北山十八間戸（奈良市）

出張者 関根透主任

〔運営委員会〕

平成一〇年三月二三日（月）午後三時三〇分）

図書館会議室

平成一〇年度事業計画案

平成一〇年度予算案

出席者 高崎直道所長、関根透主任、納富常天所員、大三輪龍彦所員、河野真知郎所員、永田勝久所員、
小林恭治所員、石田千尋所員、中田直道所員、矢島道彦所員

研究所概要

〔所在地〕 〒二三〇―八五〇一 横浜市鶴見区鶴見二―一―三 鶴見大学内

TEL 〇四五―五八一―一〇〇一

FAX 〇四五―五七二―八〇〇九

(担当事務部：文学部・短大部事務部)

〔所長〕 高崎直道 鶴見大学学長(印度哲学)

〔主任〕 関根透 歯学部教授(倫理学)

〔所員〕 納富常天 文学部教授(宗教学)

大三輪龍彦 文学部教授(日本史)

永田勝久 文学部教授(化学)

河野真知郎 文学部教授(文化人類学・考古学)

小林恭治 文学部講師(日本語)

中田直道 女子短期大学部教授(哲学)

石田千尋 女子短期大学部助教授(美術史)

矢島道彦 女子短期大学部助教授(宗教学)

〔顧問〕 中村元 鶴見大学顧問教授(東方学院院长、学士院会員、東京大学名誉教授)

鶴見大学仏教文化研究所規程

(設置)

第一条 鶴見大学に、鶴見大学仏教文化研究所（以下「研究所」という。）を置く。

(目的)

第二条 研究所は、鶴見大学の建学の精神に則り、日本における仏教文化を中心に、広く仏教と文化に関する研究を推進し、学術の発展に寄与することを目的とする。

(研究内容等)

第三条 研究所は、前条の目的を達成するために次のことを行なう。

一 宗教学等の教授内容としての諸宗教の比較、仏教教理、曹洞宗学（特に總持寺教学）及び日本文化に及ぼした仏教の研究などの基本的研究

二 鶴見大学及び鶴見大学女子短期大学部における建学の精神の具現化及びその方法等の研究

三 鶴見大学大学院文学研究科との共同研究及び他の研究機関との学際的研究

四 研究会、講演会及び公開講座等の開催

五 所員の調査及び研究の成果並びに共同研究の成果、講演等の発表のための紀要類の刊行

六 その他研究所の目的を達成するために必要と認める研究等

(研究部門)

第四条 研究所に、次の2研究部門を置く。

一 仏教学研究部門

二 仏教教育研究部門

(所長)

第五条 研究所の所長は、鶴見大学学長の併任とする。

(所員)

第六条 研究所の教員は、専任のほか、鶴見大学及び鶴見大学女子短期大学部の専任教員の中から所長が委嘱する。

二 研究所の職員（教員を除く。以下この項において同じ。）は、専任のほか、鶴見大学の専任の職員の中から所長が委嘱する。

(研究員)

第七条 研究員は、鶴見大学及び鶴見大学女子短期大学部の専任教員以外の者から、所長が委嘱する。

二 研究員の任期は一年とし、更新することができる。

(顧問)

第八条 研究所に、必要な助言を与え事業の円滑な運営を図るため、若干人の顧問を置く。

(運営委員会)

第九条 研究所に、第三条に定める研究内容等の企画、運営のため、運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長及び所長が委嘱する運営委員をもって構成する。

三 運営委員の任期は二年とし、更新することができる。

(経費)

第十条 研究所の経費は、鶴見大学の年間研究費予算その他をもってこれに充てる。
(規程の改廃)

第十一条 この規程の改廃は、運営委員会の議を経て、行なうものとする。

附 則

この規程は、平成七年四月一日から施行する。

仏教文化研究所平成八年度購入資料一覽

一、觀音經事典	柏書房	一冊
二、逆引仏教語辭典	柏書房	一冊
三、行基事典全2冊	国書刊行会	全二冊
四、興教大師覺鑠写本集成	法藏館	全四冊
五、聖德太子事典	柏書房	一冊
六、〔総持寺五院住番帳〕		全八冊
※普藏院住番帳、普藏院輪住誌、妙高庵輪住誌、洞ノII庵住番記、伝法庵住番帳、伝法庵輪住誌、如意庵輪住帳、如意庵輪住誌		
七、歎異抄事典	柏書房	一冊
八、道元禅師伝研究	国書刊行会	全二冊
九、東方学論集	東方学会	一冊
十、日本禅宗史論集 上卷	思文閣出版	一冊
十一、日本仏教人名辞典	法藏館	一冊
十二、平川彰著作集	春秋社	一二冊
※第1卷～8卷、14卷～17卷		
十三、仏垂般涅槃略説教誡教	教行社出版	一冊

- | | | | |
|--------------------------|-------|-----|-------|
| 十四、水野弘元著作選集 | 第3卷 | 春秋社 | 一冊 |
| 十五、大般若波羅蜜多經 | 卷第二百一 | | 一軸 |
| 十六、大般若波羅蜜多經 | 卷第四九六 | | 一軸 |
| 十七、Palm leaf manuscripts | 貝多羅葉經 | | 一冊 |
| 十八、PTS translations | | | 全七十冊 |
| 十九、PTS original texts | | | 全一三二冊 |